

2022 年度 事業報告書

公益財団法人 日本 AED 財団

I. 事業期間

2022 年(令和 4 年)4 月 1 日～2023 年(令和 5 年)3 月 31 日

II. 事業報告

「心臓突然死から市民を救うことを目的とし、もって我が国における安全安心を確保することを目指す」という財団の理念に基づき、School (学校現場での救命と生徒への救命教育、学校での心臓突然死ゼロを目指した取り組み)、Sports (スポーツ現場への心肺蘇生・AED 教育の普及促進、AED 活用体制の整備によるスポーツ現場での心臓突然死ゼロを目指した取り組み)、Social (社会運動と Social Network を活用した救命システムの確立と普及、情報発信) の 3 つの S を柱として取り組みを行った。

設立 7 年目を迎えたが、公益財団法人としての管理体制、基盤の強化に取り組んだ。新型コロナウイルス感染症の影響でイベントの規模を縮小することになったが、オンラインでの会議や講習会の開催で工夫を行い目的の達成に向けた事業の継続に努めた。

III. 会議開催

定款に基づき以下の会議を開催した。

評議員会(2 回) : 5 月 23 日(於:KKR ホル・WEB)(定時)・8 月 31 日(書面決議)

開催理事会(5 回) : 4 月 26 日・5 月 23 日・8 月 4 日・10 月 25 日、3 月 13 日

(於: WEB・対面のハイブリッド開催、5/23・8/4 は書面決議)

実行委員会 : (3 回) 4 月 26 日・7 月 1 日、10 月 24 日(於: いずれも WEB)

《主な取り組み》

(1) 社会全体に対して行う事業

① AED 推進フォーラム

減らせ突然死 AED 推進フォーラム 2022 ～あなたも私も救命サポーター～を開催。

新型コロナウイルス感染症の感染予防のため人数限定での開催としたが、総勢 136 名の参加を得た。名誉総裁である高円宮妃殿下よりご挨拶のお言葉からはじまり、講演は「team ASUKA の原点をふり返る」「家族皆が救命サポーター」「救命サポータープロジェクト team ASUKA の紹介」について行われ、その後「救命サポーターたちが命を救う社会の実現に向けて」としてパネルディスカッションを行った。

また、記録冊子を関係団体に配布したことに加え、フォーラムの内容を広く一般に知っていただくため記録冊子と動画をホームページに公開した。

<https://aed-zaidan.jp/report/20230328.html>

② 表彰事業 (AED 功労賞)

AED の利活用促進の為の仕組みや仕掛け作りに貢献した個人や団体を表彰し、さらなる利活用を促進することを目的に表彰事業を実施した。AED を活用して救命に関わった個人・団体を全国から自薦・他薦を得るためホームページや SNS 等により広く募集し、14 件の応募があった。選考委員による公平な審査を経て①の AED 推進フォーラムで表彰式を行った。また、

記録冊子および、ホームページでもその取り組みを紹介した。

今年度は下記3件が表彰された。

【最優秀賞】特定非営利活動法人命のバトン 様

「福井県を中心にした心肺蘇生講習の普及活動」

【優秀賞】林 陽月 様、美弘 様、正隆 様

「自由研究での AED マップが役に立った人命救助」

【優秀賞】福岡市消防局・福岡市教育委員会 様

「福岡市教育委員会と消防の連携での救命教育」

③情報発信

- ホームページや各種 SNS、動画配信サイトでの情報発信を実施した。
- より情報が伝わりやすいよう、ホームページの改修に着手した。
- ニュースレターを発行し、当財団の活動の周知と啓発に役立てた。
<https://aed-zaidan.jp/report/index.html?tag=4>
- AED を学ぶための e ラーニング教材『心止村湯けむり事件簿』は好評により配信を継続した。
<https://aed-zaidan.jp/suspence-drama/index.html>
- AED 大使の協力による情報発信を行った。
 - 蝶野正洋大使：第 14 回全国で PUSH！運動 オンライン減らせ突然死トークショー 出演
 - 有森裕子大使：News Letter Vol.12 へのインタビュー掲載
AED 推進フォーラムで「あなたも私も救命サポーター」について 発言
 - 中村憲剛・蝶野正洋・有森裕子各大使
：救命サポーターアプリで応援メッセージ配信
- 宝くじの社会貢献広報事業の助成を受けて「命を守る 心肺蘇生 AED」教本 33.1 万部の制作・配布を行った。スポーツ団体、駅、空港、および全国組織の企業、団体などに広く配布し、活用いただいた。

④AED に関する調査・提案

- 小児用パッドに関わる問題提起と啓発
従来、小学生に用いる AED の電極パッドには「成人用」との表記がされており、学校で心停止となった小学生に、「小児用」と「成人用」のどちらの電極パッドを使うべきか、教師が迷う事例が発生していた。当財団ではこの混乱を是正するために関係者と協議を行い、その結果を受けて、蘇生ガイドライン 2020 内での表記が「小児用」⇒「未就学児用」、「成人用」⇒「小学生～大人用」へ修正された。一般市民及び各 AED メーカーに周知徹底するための情報発信を行った。
- 2019 年 7 月に経済産業省から発表された AED の JIS マークの普及・啓発に努めた。東京都の交番、東京消防庁の各消防署に新 AED マークとして掲示されるなど普及が進んでいる。

(2) スクール関連事業

①学校教育関連団体との協働事業の推進（学習指導要領への記載）

小学校から始まる学校での救命教育を推進するため、小学校の学習指導要領への新規記載、中学校高等学校の指導要領における位置づけの強化、教員養成課程への救命教育の導入などを求める取り組みを進めた。

②救命教育副読本等の配布

小学校安全教育用副読本を作成し、ホームページや案内用チラシ等を通じて、広く小学校に紹介し、希望する学校(242校、20,126冊)、教育関係機関(28件、8,291冊)へ配布した。配布した学校に対しては副読本を活用した救命教育に関するアンケート調査を行ない、成人用副読本とともにホームページからダウンロードできるようにした。

<https://aed-zaidan.jp/user/media/aed-zaidan/files/download/poster23-4.pdf>

③学校版 EAP(エマージェンシーアクションプラン)の作成・配布

教育現場での心臓突然死を減らすために、学校関係団体、医療関係団体と連携し、学校において緊急事態が発生した際の一連の行動を事前に確認していざという時に備える、Emergency Action Plan の配布・配信を行った。

https://aed-zaidan.jp/user/media/aed-zaidan/files/download/School_EAP.pdf

④スクールフォーラムの開催

小学校における救命教育導入への基盤を構築するため、研究委嘱校において、救命教育のモデル授業やシンポジウムを2021年度開催予定だった千葉市立新宿小学校で10月14日に開催することができ(参加120名)、2月2日には川越市立中央小学校(参加154名)でも開催した。

⑤ 関連する情報の発信

文響社うんこドリルとコラボし、小学生から大人まで、AEDや救命処置について楽しく学べるアプリゲームとなぞかけ動画を配信した。

ゲーム

https://play.unkogakuen.com/manabi/game/lifesaving_aed/

なぞかけ動画

<https://youtu.be/Y1CNxPSzSg0>

<https://youtu.be/2B-8kp5JN9Q>

また、桐淵理事が中心になってまとめた『「ASUKA モデル」と小学校からの救命教育の推進』の研究冊子の紹介を引き続き行った。

https://aed-zaidan.jp/user/media/aed-zaidan/files/download/Kiribuchi_report.pdf

(3) スポーツ関連事業

①提言の作成とその啓発と実践

『スポーツ中の心臓突然死ゼロを目指して』、及びスポーツ版 EAP(エマージェンシーアクションプラン)を引き続き公開し、スポーツ団体に導入を促した。

https://aed-zaidan.jp/user/media/aed-zaidan/files/download/EAP_Sports.pdf

②スポーツ施設の AED 設置場所ガイドラインや案内標識の見本提示

スポーツ競技場において、観客の心臓突然死を減らすため迅速に AED を運ぶシステム「RED SEAT」を考案し、その普及につとめた。サッカーJリーグ、プロ野球において試験実装するだけでなく、ラグビーリーグワンにおいては、4チームで実装され、実際に公式戦においてシステム運用がなされた。観客の安全に寄与するとともに、チーム、観客に対して AED や心臓突然死についての啓発活動を行った。

<https://aed-zaidan.jp/report/20220423.html>

<https://aed-zaidan.jp/report/20220507.html>

<https://aed-zaidan.jp/report/20220707.html>

③スポーツ中の心停止事故等に関する情報収集方法の検討

安全なスポーツ環境の構築のため、関係機関、スポーツ関係者・大学・研究機関の教員・研究者等の有識者と共に、データに基づいた救護救急体制の整備構築を提案し、安全なスポーツ環境の構築に繋げることを目指し、スポーツ中の心停止事故等に関する情報の収集方法について検討を進めた。

④スポーツを通じた心肺蘇生・AED の啓発

スポーツ向け AED 啓発動画を監修し、継続配信した。

300 秒のキセキ【スポーツ編】

<https://youtu.be/6L-iEydV0m0>

日本 AED 財団の医師（本間実行委員）による解説動画

<https://youtu.be/Mfbsw9DgSeg>

(4) ソーシャルムーブメント関連事業

①各種団体と連携した社会活動の促進

AED の認知度向上を目的として、心肺蘇生・AED の利活用、普及促進につながる活動を各種団体（厚生労働省、消防庁、日本救急医療財団、日本心臓財団など）と連携して行なった。他の団体主催のイベントへ協力し救命講座などの開催や、マスコミからの AED 取材への協力を行うことなどにより社会活動を促進した。

【マスコミ取材等（新聞・TV・保健所等）への対応による促進活動】

<https://aed-zaidan.jp/about/media.html>

②高精度全国 AED マップ『AED N@VI』の運営

ボランティアの協力を得て、精緻な AED 設置情報を継続的に取得し更新し続けることの出来る AED マップ（AED N@VI）に、周囲の AED 検索機能や講習会受講歴の管理機能、アプリ利用者同士の SNS 機能などを追加し、利用者同士を救命サポーターとして連携させる「救命サポーター team ASUKA」としてアップデートした。AED N@VI の機能はそのまま包含し、信頼性の高い AED 設置情報の共有も継続している。ホームページ・チラシ、SNS 等でアプリの存在を広く社会一般に公表するとともに、若年に人気のコンテンツである Virtual YouTuber 白上フブキ氏に team ASUKA 救命サポーターを委嘱し多くのサポーターを得た。

3 月 31 日現在の登録数：

個人サポーター：約 11,000 人、団体サポーター：72 団体、AED 登録台数：約 52,400 台

③AED 救命支援システムの普及に向けた課題の整理

心停止現場付近にいる登録ボランティアへ、消防を通じて心停止発生情報を共有し、AED を現場に運ぶというシステムに関する課題の整理を行う事で、全国の既存 AED が活用される機会を増やす活動を進めた。AED マップ・AED 救命支援システム活用検討会については、新型コロナウイルス感染症の影響で開催せず、AED の活用促進に向けた課題が生じた際に適宜対応する形とした。

④AED 講習会の開催

会員及びその他企業、スポーツ団体等から講師派遣の依頼を受け、AED 講習の機会を提供している。また、今年度はコロナの影響で対面講習ができなかったためオンラインでの開催方法を確立し、WEB で定期的にオンライン AED 講習会を実施した。

また、2月に国分寺市立第十小学校で開催された、全国学校安全教育研究大会にて武田常務理事が小学校5年生の心肺蘇生 AED 学習のサポートを行った。

講習会の実施は、イベントで10回、企業・学校・自治会、その他へ28回、財団事務局よりWEBでの定期開催23回の計61回で、延べ2,480人の受講となった。

以上のとおりであるが、2022年度事業報告には、事業報告の内容を補足する重要な事項が存在しないので附属明細書は作成しない。